

2023 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会

2023 年 9 月 1 日発行

祝 「通潤橋」 土木構造物で初の国宝指定に



2022 年度 一年生のための土木系教育プログラム紹介 ご協力の御礼

2022 年度一年生担任 准教授 才ノ木 敦士

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年 8 月初旬に実施しました「在学生・卒業生による一年生のための土木系プログラム説明会」につきまして、多大なお力添えを頂きました皆様方にこの場をお借りしまして御礼かたがたご報告申し上げます。上記の説明会は、まだ土木について具体的な知識をほとんど持っていない土木建築学科の一年生を対象に、蘇遙会の学生たちが中心となり計画の立案をし、実行しました。具体的な内容を以下に記します。

○土木系教育プログラム説明会ブース

蘇遙会の 3 年生が中心となり、土木工学教育プログラムおよび地域デザイン教育プログラムの 2~3 年生のそれぞれの講義科目に対して、形式・内容・特徴・テスト形式などをプレゼンに図付きで分かりやすくまとめて、発表してくれました。

○研究分野説明会ブース

土木系教育プログラムにおける研究分野を「水・環境」、「構造・材料」、「地圏」、「計画」の 4 つに分け、それぞれの分野で各研究室の学生に協力していただき、ポスターを作成し発表しました。水環境分野は、流砂、水処理・地下水分析、波浪予測、氾濫解析や生態系に配慮した川づくりなど、構造・材料分野は材料の破壊、CO₂ 排出量を削減する新たなコンクリート、力学的合理性に基づく構造デザイン、インフラ構造物の耐震性など、地圏分野は地盤汚染、トンネルの耐震性、岩盤の透水性など、計画分野は、広告の景観、地域防災、駐車場需要予測や地域資源を生かした観光まちづくりについてポスター発表を実施しました。それぞれの研究分野および研究室の特徴がよく分かるポスターになっており、参加した一年生たちも、4 年生や修士学生の説明を興味深く聞いていました。

○卒業生紹介ブース

熊大を卒業し、土木業界で活躍する OG、OB の方々にご協力を頂き、普段の生活や仕事内容などを分かりやすく説明して頂きました。具体的には、中央コンサルタンツの川畑様（2019 年度卒）に建設コンサルタント業務についてお話をいただきました。また、清水建設株式会社の廣濱様（2019 年度卒）には、清水建設の方々にオンラインで参加して頂きながら、様々な施工現場のお話や建設業界の仕組みについて説明していただきました。非常に分かりやすい説明で、一年生だけではなく、蘇遙会の三年生も真剣に聞き入っていました。



○ノベルティグッズの配布

今回の説明会のために、OG・OG の皆様方にご協力いただき、企業のノベルティグッズを熊本大学に送付して頂きました。ノベルティグッズは、各会社のグッズを一つの袋にまとめて配布し、全ての企業のグッズが各学生に手渡されるようにしました。とても好評で、用意していたグッズは、ほぼ全て当日のうちに無くなりました。個数が多くかったグッズも、説明会後に各研究室の学生たちに配布させていただきました。

このように今回の説明会開催につきまして、卒業生の皆様方には様々な形でご支援をいただき、一年生担任として重ねて御礼申し上げます。土木系教育プログラムの学生たちに土木業界の魅力を伝え、将来の大きな夢を持つもらうために、今後も担任として誠心誠意努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。 敬具

敬業



ご挨拶

蘇遙会会长 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様におかれましては爽やかな日々をお過ごしのことと
思います。今年も蘇遙会の情報誌をお届けできることになりました。現
役の学生達の活動状況、卒業生の寄稿や教室からの情報等を満載し
ておりますので、是非目を通してくださいればと思います。蘇遙会は活
動を通して土木系の卒業生と現役の学生及び教職員をつなぐものであ
り、皆様が交わるきっかけの場であり、親睦を図る場でもあります。特に
卒業生の皆様には、現役の学生達に役立つ話題や励みの言葉を蘇
遙会情報誌へ是非投稿していただきたく存じます。

新型コロナに振り回されて 3 年目。この 5 月の連休明けから形の上で、コロナは 2 類から 5 類に変更されました。新型コロナは季節性インフルエンザと同等になったとのことです。決してコロナウイルスが消滅した訳ではありませんので、十分留意して下さい。今年は各種の会議や研修旅行などの活動が再開され、卒業生との同窓会活動もできることになりました。感染対策をしっかりして、蘇巡会の学生達の活動や卒業生同士の交わりが増え、活発化して欲しいものです。卒業生からの開催報

告やイベント便りが蘇遥会事務局へ届くことを期待しています。

大学では、やっとコロナ前の状況と同様な対面授業になったようです。オンラインによる授業やビデオを利用した授業は、先生方には大きな負担があったかと思いますが、授業実施の方法を考える上では良かったのではないかでしょうか。どこの大学でも授業改革が進んだかと思いますが、学生達のコミュニケーション力の向上や学習理解の向上が十分できているのか心配な面もあるようです。今後は、コロナ前以上の先輩と後輩、あるいは、卒業生や教職員との交流が活発化するような行事を実施して欲しいものです。

今年の蘇遙会運営委員会の構成は、運営委員長は昨年に引き続
いて円山琢也教授（学科代表）、土木教室の2年生担任は才ノ木
敦士准教授です。また、学生部は、学部3年の中村優志部長、古賀
基幹副部長ら6名です。活動コンセプトは「蘇新」に決まり、コロナ禍で
なくなっていた活動を蘇らせるとともに、蘇遙会が土木建築学科の新た
なつながりをつくるという意気込みを込めたものです。

運営委員会は5月26日、対面とオンラインのハイブリッド開催で実施しました。

最後にお知らせです。これまで長く蘇遙会の事務局を担当されました森永尚子さんが 3 月末に退職され、後任に藤内英子さんが決まり、4 月から活動しています。また、蘇遙会の事務室も土木系教室の事務室と同じ場所になりました。森永さんには蘇遙会事務を長年にわたり丁寧にかつ根気よく対応していただき、心から感謝申し上げます。また、蘇遙会の事務を預かるのは何かと大変で、新しいことばかりかと思いますが、どうぞよろしくお願ひします。会員の皆様には、蘇遙会並びに工業会のご支援とご協力をよろしくお願ひ致します。

対面での交流を力に！

蘇遙会運営委員長 円山琢也

卒業生の皆様には、日頃から土木教室へのご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。令和 4 年度に統いて土木系の教室長と蘇遙会運営委員長を務め、本年度は土木建築学科副学科長を担当しております。蘇遙会と土木教室の発展に向けて、引き続き微力ながら尽力したいと思います。

コロナ禍からの日常生活への復帰に伴い、対面での交流の機会のありがたさと重要性を再認識しています。令和 5 年 3 月の卒業式では、謝恩会が 3 年ぶりに開催され、60 名の学部卒業生と 43 名の博士前期課程修了生と教員が揃って懇談できる貴重な機会となりました。また、中止が続いている研修旅行も令和 4 年 9 月 22 日には 2 年生の熊本港・八代港の見学会、12 月 8 日には 3 年生の立野ダムの建設現場の見学会として開催されました。現地で活躍される先輩方からのお話を伺いつつ、土木の現場のスケール感の大きさや社会的重要性などを学生が改めて実感する機会となりました。

講義も対面で行われており、休み時間に談笑する学生の姿や、グループワーク演習に楽しそうに取り組む学生の姿を見ると、大学での教育の価値が一方的なオンラインの動画配信で提供できる内容だけではないことを再確認させられます。同窓会の各支部での懇親会等にも参加させていただく機会も増え、対面での交流の重要性を実感します。蘇遙会学生部主催のイベントも復活しつつあり、これらの対面での交流を土木教室のさらなる活性化につなげたいと考えています。

教室の教員の異動に関しては、まず令和 5 年 3 月に大谷順教授と

辻本剛三教授が定年退職され、技術部の佐藤宇紘様も退職されました。大谷先生は 30 年にわたり土木教室の教員として幅広く活動いただき、現在は本学の理事としてご尽力されています。辻本先生は 7 年間教室に在籍され、教育研究活動のみならず学部教務委員長や学科長としても貢献されました。佐藤様には 14 年間にわたり学生実験や学生の指導の補助などでお力添えをいただきました。皆様の引き続きのご活躍を祈念しております。

また、令和 4 年 7 月には佐藤晃准教授、令和 5 年 1 月には竹内裕希子准教授、同年 4 月には尾上幸造准教授と星野裕司准教授が教授に昇任しました。さらに同年 4 月には、京都大学の博士後期課程を修了された渡部慎也先生を助教としてお迎えしました。渡部助教は構造力学、橋梁の維持管理、非破壊検査がご専門で、若くフレッシュな先生です。

現在の教室の教員は教授 11 名、准教授 6 名、助教 3 名の計 20 名となっています。歴史のある熊大土木の魅力をさらに高め、多くの意欲ある若者に志望してもらえる教室を目指しています。中堅・若手の教員が主体となり、将来の教室の姿を描き、その実現に向けて工夫を重ねていきたいと考えています。卒業生の皆様には、インターンシップや各種講演会など様々な場面でご支援をいただくこともあるかと思いますが、引き続きどうかよろしくお願ひいたします。

寄 稿

大学生から後期高齢者へ



土木工学科 昭和 47 年卒
庄司 順一郎 氏

真面目な学生だったと思う（年寄りは自分に甘い）。新しく建てられた工学部で橋梁の勉強をしようと胸躍らせて入学したのは遠い昔の話。入学後 1 年間くらい平穀だったかなあ。この九州の大学まで「学生運動」の波が押し寄せ、約半年間

学校閉鎖を経験した思いがある。これで向学心に燃えていた田舎者の心が折れた。パチンコ、マージャン、競輪と遊びに逃げ込んだ。今思えば、当時住んでいた学生寮の雰囲気も主要な要因の一つだ。当時の学生寮は1部屋4人(4年生、3年生…新入生のぼく)で生活を送っていたが、人は悪い方に流れやすい。悪い見本に事欠かなかった。卒論は「土質力学」を選んだ。同級生、各先生方、助手の方々の支えでなんとか5年で卒業できた。

就職先は今でいう「ゼネコン」。宅地造成工事、空港拡張工事と真っ黒になりながら毎日測量に従事していた。忙しい日々を送っていたが、ある日結婚(僕だってやるときはやるんだ)。その後、縁あって30歳ごろ東京の建設コンサルタントに転職、現在に至る。前述したように大学では「土質学」を専門として学んできたが、いまは「河川屋(自称)」の末端にいる。人間は、状況により変わること身を以て学んだ。日本語もうまくしゃべれないおいらが海外での仕事もした。このとき、大学の教養課程の語学を真剣にやればよかったと猛省。反省してからこそ人は成長するというが、凡人は反省しても成長は難しい。後期高齢者となった今の自分の成績は甘くみて「可」だ。残りの人生で「優」を取るにはどういう方策があるだろうか?

学生のみなさん、勉強しましょう。でも大事なことは健康であることです。

地方公務員としての私の歩み

土木工学科 昭和47年卒 中村 孝 氏

入学後しばらくして大学紛争が起き後期試験を前にストライキに突入しました。授業が無いのでアルバイトをしていましたが、秋の授業再開後は授業に追われる毎日でした。学生時代のストライキで社会主義や文学など多くの本を読み自分の生き方を考えたことが、その後の仕事に対する取組みや住民対応など大変役に立ったと思います。

卒業後は鹿児島県庁に就職しました。大学の多くの先輩が活躍され



ており今後は先輩方に続けるよう何事にも積極的に取り組もうと決意しました。

県庁勤務の前半は主に道路事業に携わることになり本庁で県全体の計画等を、出先土木事務所では測量や設計積算、現場確認など計画から完成まで経験しました。特に屋久島ではPC橋や鋼Πラーメン橋を担当しましたが下部工の施工に苦労しました。本庁の橋梁係長になって徳之島に鋼アーチ橋、甑島にPC斜張橋などの整備の他、県下に数多くの橋梁を計画して整備することができ、とても恵まれた時代でした。

後半は都市計画を担当して、県下市町等の多岐にわたる都市計画の決定変更など幅広く取り組みました。また、平成5年の豪雨で鹿児島市の甲突川が氾濫し、文化財の西田橋を移設復元することになりましたが県民の大きな反対運動に遭う経験も致しました。

その後加世田市に助役として勤務しました。市政全般を担当することになり最初は戸惑いもありましたが、地域の方々や県の関係者などの協力で無事勤めることができました。

県に帰ってからは都市計画課長や土木事務所長、建設部長として地域づくりに努めました。

退職後は霧島市副市長に選任され、市民生活の向上や安心安全で活力のある街づくりを進めて、現在は設計コンサルタントに勤務しています。これまで多くの業務に携わることが出来たことや整備した箇所が地域の発展に役立っていることに大きな喜びを感じています。

熊大で学べたことが私の原点であり、県退職後始めたマラソンとフルート練習をこれからも続けられるよう健康に留意して頑張りたいと思います。

学生の皆様には、今後の社会の変化に伴う様々な課題に専門的知識を活かし活躍されることを期待しています。最後になりますが蘇遙会と熊大の益々のご発展をお祈り致します。

熊大人生

土木工学科 昭和47年卒 辺見 愚平(ポンネーム)氏

私達の学生時代は学園紛争真最中。私はノンセクトラジカル即ち付和雷同型の参加。また私は部活としてヨット部、文芸部、映画研究会に所属していた。当時、学生運動における工学部並びに法文学部の紛争を率いる全共闘委員長は両者ともヨット部の先輩、私も影響を受

け少なからずデモに参加した。学内の活動として、同人誌に詩作で参加。映研での本邦未公開であるアンソニー・クインの「25 時」自主上映は忘れ難い。いずれにしても、土木工学科での何事にもめげない友人、ヨット部の個性丸出しの連中からの影響は非常に大きく、私の純粋無垢な気質は著しく豪胆にまた繊細な気骨にと変化していった。しかし時代柄、なかなか卒業単位取得が難しく留年し、辛抱の 5 年目でもあった。

就職は、県庁土木技術職員にギリギリやっと入り込んだが、県庁職員の仕事は思ったより面白く、まず、最初に行った工事中の現場で、図面と工事ヤードの位置が違っていることを発見し、即報告。「私はこの仕事を向いているのかも？」と心ひそかに思ってしまった。その後、いろんな部署で黙々と土木技術の腕を磨き、企画関連の部署では 100 近くの曖昧な作業項目を整理し規定した。特に建設副産物、産業廃棄物の適正処理のために頑張った。ところが職階には恵まれず、出先事務所の課長になったのは 53 歳。前々から多少不満を感じており、早めの転職に必要な鎧・兜である「資格の取得」を意識し、20 年ほどで 15 ほどの資格を取得した。

臼杵土木事務所所長 57 歳で早めの退職、コンサルタントに転職し、技術的問題処理と営業を担当し、官庁と業者の間に立って数々の難題を社会的に、技術的に、効率的に解決するためのサゼッショをしてきた。その後再び小規模コンサルタントに転職。気が付けば 74 歳、まだまだ活躍の途中だと思いたい。本業の管理技術者、照査技術者での担当も現在約 200 業務となっている。これらの礎は県職時代の土木業務に、ただひたむきに、ひたすらに取り組んできた結果であると思っている。

また公務員時代からボランティアグループ「みちの会」、「ぶんごどっこ」に所属しており、この 20 年間を整理してみると通算実質ボラ時間が 2,000 時間に及んでいる。

そして好事家としての私の究極の嗜みは、お酒を飲むための徳利と猪口、ぐい呑みを蒐集すること、気に入った酒器で日本中の銘酒を飲むことであり、銘酒会グループを 2 つ程作り、250 種余りの銘酒を嗜んできた。少しの酒で大いに酔い、美形を侍らせ、高らかに唄い、優雅に舞う、そして必ず潰れるまで飲む、即ち、「飲酒の極み」を会得すべきと精進してきた。

最後に、私がモットーとしている作家・城山三郎氏の人生観を紹介して、終わりとする。

人生を強靱に生きるための三つの術

・自己を保つ ・ 実績を積む ・ 親しい者を大切にする。
まだまだ語り足りない私の人生ですが、ここまで付き合っていただいた方に

鞠躬如…（きつきゅうじよ）※

※身をかがめおそれつてしまふ。（事務局より補足）

笑いと人情の熊大土木

土木工学科 平成 4 年卒 安藤 正毅 氏

大学を卒業後、大分県内の建設会社に入社、東京近辺の公共工事をはじめ約二十の現場監督を経験しました。38 歳のときに、出身地（大分県臼杵市）に近い鉱山系会社に転職、現在はそのグループ会社で代表をしており、建設工事などを主業に働いております。

最近、奇跡的出来事がありました。それは、弊社が県発注工事を受注したのですが、発注者の所長が同級生（昭和六十二年入学石和氏）で、契約書に私と彼の名前が並んだときには、なんとも感慨深い思いでした。これは二度とないとすぐさま、スマホを取り出し契約書を写真に収め、ラインで同級生に自慢？ したところです。

今年で 55 歳。大学卒業後の 31 年はあつという間でしたが、今振り返ると色々な場面で熊大土木を卒業して良かったと感じています。学生時代は、体育会系で先輩後輩の関係が厳しいと思っていたこともありました。だが、いざ社会に出ると、人脈によって助けられた場面が多くありました。在学生や若い方々には、是非とも熊大土木の繋がりを感じて欲しい。そして人脈を活かして欲しい。そのため蘇遙会や工業会などに参加してもらいたいと切に思います。私たちは、いつでも後輩とともにあります。せっかくの熊大土木卒の恩恵を活かさない手はないと思います。

実は、学生時代から続く趣味に「落語」があり、当時「熊大落語研究会」に所属し、土木の仲間も寄席に来てくれたものです。卒業後、40 年もの歴史を誇る「県南落語組合」にすぐに入会しました。「嘶をして！」呼ばれれば、これ幸いと県内各地へ馳せ参じ自慢の落語を披露する。なんと言っても自由でもの好きが集まつた会なので至極気持ちいの良いひとときです。写真は、7 月 8 日に開催した「第 36 回よのくに寄席」で出演したときの様子です。



最後になりますが、学生時代、令和では、考えられないような平成のCM「24 時間戦えますか？」が流行していました。今は、ワークライフバランス。仕事、家庭のバランスがやはり大事な時代。今後の目標は、平凡ですが家族や趣味を大事にして健康で過ごすことです。

追伸 山尾会長様 津久見にお帰りの際はお会いできればと思っています。

転石 苔を生ぜず

環境システム工学科 平成 14 年卒/16 年修了 田中 正俊 氏

私は 2000 年に岐阜高専から 3 年次に編入学し、大学院修了までの 4 年間を熊本で過ごしました。4 年次からは複合材料研究室の大津研に在籍し、M1 時にはアメリカで開催された AEWG Student Award Competition に参加する機会を頂きました。初海外、大津先生との緊張の二人旅、英文丸暗記でプレゼンに臨んだこの挑戦後は、妙な自信がつき、度胸が据わった気がします。

新卒時はコンクリートに携わりたいという思いで PC 橋梁メーカーに入社し、国交省発注の上部工建設現場に配属されましたが、半年で退職しました。その数か月後、セメントメーカーの建設コンサルタント会社に再就職し、RC 構造物の劣化調査やコンクリートを含むセメント系材料に関する試験を対外的に請け負う業務を 9 年ほど経験しました。ここでは、コンクリートの基礎はもちろんのこと、物理的、化学的側面からの知見、それによる複合的判断、分析結果を依頼者にわかりやすく伝えるた

めの論理的思考などを学びました。

その後、2014 年に三菱マテリアル（現在はセメント事業が独立、UBE 社の同事業部門と統合してできた UBE 三菱セメントに転籍）の資源部門に転職しました。当時 35 歳になり顧客からの信頼も得られ、業務の難易度も高くなり、コンクリート技術者として充実し始めた時期での鉱業への転職は周囲には驚かれましたが、専門性が高い故に個人で対応するが多く、組織運営を経験することができない事に不安を感じ始めていたためでした。現在は、転職から 9 年経ち、子会社の碎石工場に出向し、副工場長として、50 人近い工場従業員とともに昨今の厳しい事業背景の中で、事業継続のための操業合理化に日々取り組んでいます。高専や大学で学んだ工学的知識やコンサルで学んだ論理的思考などは異業種での挑戦に確かな武器となっています。

最後に、土木でも同様だと思いますが、鉱業でも DX 化への取り組みが盛んに行われており、IOT、ICT 化が進む中で、これまで出来なかった集積データからのボトルネックの抽出が可能になりました。しかし、データマイニングが出来る人材の不足により、集積データを有効に活用できているとは言えません。在校生の皆さんには働き方の多様化が進む中で、そういう背景も視野に入れてスキルアップされ、ご活躍されることを期待致します。



地盤に関わる仕事への道 —私の経験と学び

環境システム工学科 平成 14 年卒/16 年修了 和田 昌大 氏

私は H10 年に入学し、H14 年に卒業、H16 年に修了しました。私の学生時代は、超就職氷河期と呼ばれる時期でした。クラスの半分は修士課程に進学し、残り半分の約半分は公務員を目指す人たちでした。

卒業後、私は「基礎地盤コンサルタント株式会社」という地盤調査の専門コンサルタント会社に入社しました。私は鈴木・北園研究室で土質力学を学んでおり、地盤に興味を持ったことがきっかけでした。入社後すぐに、関西支社に配属され、神戸空港建設に携わり、海上埋立地での盛土の締固め管理や圧密沈下の将来予測などを担当しました。関西では、10 年ほど軟弱地盤の土質調査業務に従事しました。その後、橋梁設計のコンサルタント会社である株式会社長大の海外事業部に 3 年間出向し、発展途上国での橋梁プロジェクトにおける地盤調査を担当しました。出向期間を終えた後は、東京で港湾施設の耐震診断業務に主に携わり、昨年の 4 月



からは 10 年ぶりに関西支社に戻り、現在は、支社全体のマネジメントを担当しています。

就職活動をする皆さんへのアドバイスですが、条件だけで企業を選ぶのは避けましょう。企業のリクルートページにはポジティブな情報しか掲載されていないため、実際の就業環境や細かい規則は入社してみないとわかりません。また、大企業に入ても自分の希望や、やりたいことを追求する余地がない場合もあります。だからこそ、給与や福利厚生などの条件だけで企業を選ぶのは避けましょう。後悔する可能性が高いです。自分が本当にやりたいことをよく考えましょう。また、先輩たちの声を積極的に聞くこともおすすめです。実際の声は企業選びにおいて非常に役立つでしょう。

私の今後の目標は、地盤に関わる仕事を通じて、社会貢献することです。建物、食べ物、遊びなど、私たちはすべて「地盤」の上で生活しています。あなたも「地盤」という分野に足を踏み入れて、人々の生活に欠かせない仕事を経験してみませんか。

退任挨拶

ご 挨 捭

辻本 剛三

卒業生、在校生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと、本年 3 月末日を持ちまして熊本大学を定年退職いたしました。2016 年 4 月に本学に奉職し、7 年間の短期間ではありましたが、卒業生、在校生の皆様方からのご支援、ご厚情をいただき感謝申し上げます。また、退職直前の最終講義の場には、多くの卒業生にご参加いただき、重ねてお礼申し上げます。

退職して約 3 ヶ月が経過しました現在、週 3~4 日程度、外部で仕事をしながら、4 月、5 月は在職中からの継続であった研究論文の執筆に追われておりましたが、ようやく生活のリズムが出来始めました。この間、5 月 6 日は神戸で最終講義の機会を準備していただき、熊本での内容とは少し違った講義をしました。6 月末にはコロナ禍で制限されていた学会が 4 年振りに対面で網走市において開催され出席しました。久しぶりにお会いする先生方や関係者との懇親を深めることができ、改めて人との繋がりの大切さを実感しました。休日は大学に在職中はあまり活動できなかったバドミントンを再開し、地域の方や教室に参加しながら、疎遠であった前職場の卒業生や友人達との交流を深めております。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、近況の挨拶とさせていただきます。

学会が開催された網走市の網走海岸



支部だより

支 部	担当者氏名(卒年 G:学部/ M:修士または博士前期/ D:博士後期) メールアドレス	支部報告
東 京	坂西 由弘 (G2006 年/M2008 年) sakanisy@kajima.com	東京支部では、令和 5 年 1 月 31 日、蘇遙会の学生と協力して久々の対面と Web 参加のハイブリッド方式で出前講義を開催し、学生とのつながりの重要さを改めて感じる機会になりました。令和 5 年度は出前講義だけでなく、卒業生同士の交流を復活させるべく、東京支部総会の開催に向けて鋭意準備を進めています。
大 阪	高岡(宮田) 次義 (G1977 年) tsugiyoshi.takaoka@okumuragumi.jp	大阪支部では、昨年 7 月に幹事会を開催しました。後藤支部長以下 4 名の幹事です。今年の 11 月には 4 年ぶりの「大阪熊大土木会」を開催する予定です。前回の参加者が十数名でしたので、今回はそれ以上の参加者が増えることを期待しています。
北九州	二見 昌太郎 (G1994 年) shoutarou_futami01@city.kitakyushu.lg.jp	北九州支部では、5 月に役員会を開催し、7 月 28 日に幹事会、11 月 17 日に総会の開催を予定しています。昨年度から、支部の活動を再開し、若手の方をはじめ、幅広い世代で 3 年ぶりに対面での懇親を図ることが出来、感慨深いものがありました。引き続き、持続可能な活動を企画していきたいと考えています。
福 岡	大石 研一郎 (G1994/M1996 年) ooishi9286@yahoo.co.jp	5 月、福岡市内のホテルで熊本大学工業会福岡支部総会がコロナ禍の影響もあり、5 年ぶりに開催されました。支部総会では工業会会长である山尾先生から、続く懇親会では円山先生から来賓挨拶を頂きました。土木部会からは 20 名以上が出席し、昔話や近況報告など楽しく賑やかな時間を過ごし、最後は参加者全員で巻頭言、万歳三唱で幕を閉じました。
大 分	石和 徹也 (G1991 年) ishiwa-tetsuya@pref.oita.lg.jp	ようやく、コロナ禍が過ぎ、日常が戻ってきました。今年度は、熊大工業会の 4 年に一度の総会兼懇親会を開催する予定（11 月～1 月頃）です。工業会と名が付いていますが、土木系の出席者がほぼ独占状態となっています。ぜひ多くの方々の参加をお待ちしています。

愛媛	羽倉 伸一 (G1989 年) hagara-shinichi@pref.ehime.lg.jp	山 口	伊藤 信行 (G1978 年/M1980 年) yamaguchiitou@yahoo.co.jp
佐賀	岩橋 良憲 (G1999 年) iwahashi-yoshinori@pref.saga.lg.jp	長 崎	三道 チエ (G1999 年) chie.sandou@pref.nagasaki.lg.jp
熊本	愛甲 翁士 (G1999 年) hi.aikou@gmail.com	宮 崎	日高 淳 (G2010 年) hidaka-jun@pref.miyazaki.lg.jp
鹿児島	坂元 圭一 (G2010 年/M2012 年) keiichi-sakamoto@pref.kagoshima.lg.jp	支部活動の詳しい内容は、各連絡担当者へメールでお問い合わせください。	

◇物故者◇

2022年7月～2023年6月にご連絡があつた方を掲載しています。
卒年は蘇遙会正会員となった卒業・修了年、()内は没年月日。

■熊本工業専門学校

S24年卒 藤井 俊矣 様(2017.5)
S25年卒 古賀 国夫 様(2020.1.25)

S25年卒 谷口 尚 様(2022.5)

■熊本大学工学部

S30年卒 小島 貞志 様(2021.12.24)	S30年卒 高木 武之 様(2021.8.30)
S32年卒 朝長 賢郎 様(2022.7.29)	S32年卒 花田 稔 様(2022.9.3)
S34年卒 小田 淳 様(2022.12.1)	S35年卒 酒井 正光 様(2020.11)
S40年卒 富安 健 様(不明)	S44年卒 木村 亮太 様(2022.2.12)
S45年卒 真部 伸穂 様(2021.10.10)	S46年卒 津田 昌秀 様(2022.7.4)
S46年卒 山根 俊一 様(2016.5.15)	S47年卒 岡辺 芳文 様(2019)
S54年卒 小嶋 雄一郎 様(2021.11.27)	S58年卒 弁岡 伸二 様(2022.2.7)
S60年卒 田島 伊織 様(2022.4.14)	

皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます

◆都道府県別蘇遙会会員数
(登録自宅住所で分類)

2023年7月3日現在(物故者除く)

北海道	6	滋賀県	8
青森県	1	京都府	23
岩手県	0	大阪府	81
宮城県	11	兵庫県	63
秋田県	0	奈良県	11
山形県	0	和歌山県	5
福島県	3	鳥取県	4
茨城県	16	島根県	7
栃木県	4	岡山県	12
群馬県	8	広島県	59
埼玉県	49	山口県	62
千葉県	90	徳島県	4
東京都	149	香川県	4
神奈川県	94	愛媛県	20
新潟県	4	高知県	5
富山県	0	福岡県	927
石川県	2	佐賀県	125
福井県	2	長崎県	181
山梨県	3	熊本県	852
長野県	1	大分県	243
岐阜県	6	宮崎県	157
静岡県	5	鹿児島県	148
愛知県	38	沖縄県	10
三重県	6	不明・その他	791
合計		4,300名	

会費納入のお願い～先輩から後輩へ応援のエールを～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の会費収入より蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けて学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭(大学祭)への参加などの活動を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入をお願いする次第です。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

寄稿の募集について

情報誌、ホームページに掲載する寄稿は隨時募集しています。

- ①学生時代の思い出
- ②同窓会、同期会について（規模の大小問わず）
- ③現在のお仕事、生活についての報告
- ④後輩へのエール

など、郵便、ファックス又はメールにてぜひお寄せください。
お待ちしております。

蘇遙会事務局
活動日変更の
お知らせ
(2023年7月より)
毎週月曜・火曜
10時～16時
になりました。

教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職名	近況
尾上 幸造 (環境建設材料研究室)	教授	7月に福岡で開催された「コンクリート工学年次大会 2023(九州)」において、講演セッションの運営に幹事として携わりました。全国各地から大人数を迎える立場でプレッシャーがありましたが、無事終えることができホッとしました。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	新型コロナも第5類に引き下げられたので、ホームランの球場での観戦を3年ぶりに再開。今のところ2勝1敗。今年こそは、リーグ優勝して、日本シリーズに進出してくることを楽しみに応援します。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	今年は年男にして何とか一周回りました。相も変わらず耳順うどころか天命さえ知らず惑ってばかり。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	教授	2巡目の担任業務も最後の4年担任です。進学・就職いずれも悔いのないようにこの1年を有意義に過ごしてもらえるように力になればと思っています。休日は汗だくで“徘徊”しています。でも痩せない…
重石 光弘 (複合材料研究室)	教授	「アマゾンに鉄道を作る」ボリビアODA鉄道復旧工事のドキュメンタリーは、通訳としての著者からみた弱々しくも強く生きる現地の人々と熱いドボクマン達のバイタリティが共鳴する一冊でした。
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	教授	1月1日付で教授に昇任させていただきました。これからも引き続きどうぞよろしくお願ひします。 今年は関東大震災から100年です。被災者の孫として継承にも一層取り組んでいきたいと思います。
張 浩 (河川環境研究室)	教授	今年は就職担当を務め、多くのOB・OGの方々と出会い、学びと縁結びの一年でした。 一方、土木分野における社会的ニーズの高さと人材不足の深刻さを痛感し、教育者としての責任の重さを一層感じました。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	教授	今年度より教授に昇進いたしました。今まで以上に、熊本大学らしい教育や研究、社会貢献を展開できるよう、頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。
松村 政秀 (構造システム研究室)	教授	4月から渡部助教が着任しました。ようやく、この10月には卒業生の皆さんにお会いできることと思います。楽しみにしております。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	教授	TSM熊本進出で半導体が注目される中、教室長として学内会議で土木の重要性を訴える場面が増えました。ブームの分野だけでなく、社会を支える長期的に不可欠な土木分野の大切さを引き続き強調したいです。
棕木 俊文 (環境地盤工学研究室)	教授	今年は、カザフスタン(アジア会議)とグルノーブル(共同研究と大学の国際化の仕事)に海外出張します。また来年11月にインドネシア(スラバヤ)で特殊土に関する国際会議の開催を企画中です。
石田 桂 (水文研究室)	准教授	今年度は3年生担任で、インターンシップ関連を担当しています。官公庁、各企業の皆様には学生の受け入れ等でお世話になるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。
金 淑列 (海洋海岸工学研究室)	准教授	様々な場面で対面が増えつつ、コロナ以前の姿に戻っていて、その分仕事量も増えている。生活リズムや仕事ルーティンをコロナの前に戻し、より進歩する一年になるように。
才ノ木 敦士 (地下空間工学研究室)	准教授	2年生担任を仰せつかっております。日々の皆様方のお力添えに大変感謝しております。 これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊大18年目になる今年、熊本地震から7年、関東大震災から百年という年に、ようやくcovid-19が落ち着きを見せ、いろいろなことが3年ぶりに動き始めています。不易流行を大切に一つ一つ丁寧に、ことに当たりたいと思います。
皆川 朋子 (河川/流域デザイン研究室)	准教授	九州北部では毎年のように線状降水帯の発達による洪水被害が頻発し、まったくなしの状態です。田んぼダム、谷津田、雨庭などグリーンインフラを活用した流出抑制の実装にむけて、学生さんとともにがんばっています。

2023 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

吉城 秀治 (地域・交通デザイン研究室)	准教授	先日、卒業生が土木建築学科を頼って相談に来てくれました(私は橋渡しをしただけですが…). 頑張っている姿をみて嬉しく思うとともに、いい刺激になりました。
安藤 宏恵 (地域公共政策研究室)	助 教	昨年度は約 3 年ぶりに国際会議のため海外へ赴きました。これからもたまには海外にも行けるようにしっかり研究し、英語の勉強も継続していきたいです。
伊藤 純晃 (水質環境学研究室)	助 教	第一子を授かりました。モンテッソーリによると、子どもの発達の最後の 4 段階目は 18~24 歳で大学時代にあたり、社会に対する貢献や自分の将来等について考え自立していく期間とのことです。ナルホド。
渡部 慎也 (構造システム研究室)	助 教	3 月に学位を取得し、4 月に熊大に着任しました。学生から教員へと立場が変わり、慣れないことばかり、試行錯誤の日々ですが、何事にも積極的に取り組んでまいりたいと思います！

★竹内教授は令和 5 年 1 月 1 日付で、尾上教授、星野教授は 4 月 1 日付で、教授に昇任されました。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	尾上研究室秘書
	吉永 徹	技術専門員	園山 恵	佐藤、才ノ木研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	上田 誠	技術専門職員	下田 万里	棕木研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	中島 幸香	皆川研究室研究員
	友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	渡部 真帆	金研究室秘書
			藤内 英子	蘇遙会事務局

新任のごあいさつ

渡部 慎也　わたなべ しんや（構造システム研究室）



はじめまして、2023 年 4 月 1 日付で、熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センターに助教として着任しました渡部慎也と申します。

私は、神奈川県出身ですが、高校卒業後は東日本大震災をきっかけに東北大学 建築・社会環境工学科に進学し、修士課程からは京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻に進学、2023 年 3 月に博士（工学）を取得しました。

私の専門分野は、構造力学ですが、とりわけ鋼構造・鋼橋を対象とした研究に従事してまいりました。現在、熊本大学では「構造システム研究室」に在籍し、鋼橋だけではなく、コンクリート橋、FRP を用いた歩道橋、石橋など、橋梁全般を研究対象としています。

橋梁を含む土木構造物の老朽化の進行、令和 2 年 7 月の球磨川豪雨災害のような激甚災害など、近年、土木構造物を取り巻く環境は、より厳しいものとなっており、その安全性が揺るがされています。私は、まだまだ駆け出しの身ではございますが、熊本大学工学部土木教室、そして水循環・減災研究教育センターの一員として、こうした課題解決に向けて研究に励みたいと思っております。また、研究だけでなく社会貢献活動等にも積極的に取り組んでまいりたいと思います。皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

研究室配属人数および1～3年生の学部学生数（2023年4月現在、休学、10月入学生、社会人ドクター等を含む）

研究室（担当教員）	学部4年	修士1年	修士2年	博士1年	博士2年	博士3年	研究員・他	合計
環境建設材料研究室 (尾上)	4	3	3			1	1	12
水質環境学研究室 (川越、伊藤)	5	3	1					9
深部地下環境工学研究室 (佐藤)	4		1		1			6
複合材料研究室 (重石)	4	1	2			1		8
地域防災研究室 (竹内)	4	1	1	1				7
河川環境研究室 (張)	3	1					2	6
交通対策分析研究室 (円山)	4		5		1	2		12
環境地盤工学研究室 (棕木)	3	3	3			2	1	12
地下空間工学研究室 (才ノ木)	4	1	1					6
地域風土計画研究室 (田中)	4	3	6		1	2		16
河川/流域デザイン研究室 (皆川)	4	2	4		3		3	16
地域公共対策研究室 (柿本、安藤)	5	4	2			1		12
景観デザイン研究室 (星野)	4	4	5			1		14
構造システム研究室 (松村、渡部)	5	3	1			1	1	11
水文研究室 (石田)	3	1	1				1	6
海洋海岸工学研究室 (金)	3	3	1			1	1	9
地域・交通デザイン研究室 (吉城)	4		1					5
合計	67	33	38	1	6	12	10	167

1~3年の 学部学生数	1年	土木建築学科(コース選択前)	130	1年生は土木建築学科入学生の総数です。2年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」の3つのプログラムにコースが分かれます。蘇遙会学生会員対象は「土木系」の学生であり、土木工学プログラムコースおよび地域デザインプログラムコースの学生となります。また、改組前入学の一部の学部4年生は、社会環境工学科卒業となります。
	2年	土木建築学科土木工学プログラム	39	
	2年	土木建築学科地域デザインプログラム	26	
	3年	土木建築学科土木工学プログラム	45	
	3年	土木建築学科地域デザインプログラム	26	
		卒研未着手	18	

◆令和5年3月 学部卒業生進路【順不同】

財務省九州財務局、国土交通省九州地方整備局、気象庁鹿児島地方気象台、大分県、熊本県、佐賀県、長崎県、福岡県、熊本市、福岡市、八代市、株大林組、株オーブンハウス・ディベロップ、鹿島道路株、株鴻池組、大成建設株、株フジタ、前田建設工業株、西松建設株、株オリエンタルコンサルタンツ、株平新日本技研、九州建設コンサルタント株、大成エンジニアリング株、株TAPP、株日本シビックコンサルタント、三井共同建設コンサルタント株、株富士ピー・エス、熊本国際空港株、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株、大阪公立大学、熊本学園大学大学院会計専門職研究科、熊本大学大学院自然科学研究部博士前期課程、株KIC、株サイバーレコード、帰国・その他

◆令和5年3月 大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

長崎県、宮崎県、熊本市、久留米市、株奥村組、清水建設株、東亜建設工業株、東洋建設株、株エイト日本技術開発、株NJS、九州建設コンサルタント株、株興和測量設計、シビックアーツコンサルタント株、大日本コンサルタント株、中央コンサルタント株、株東亜建設コンサルタント、株東京建設コンサルタント、株東京設計事務所、株日建技術コンサルタント、株日水コン、日本工営株、株ニュージェック、パシフィックコンサルタント株、水野建設コンサルタント株、三井共同建設コンサルタント株、八千代エンジニアリング株、株IHI インフラシステム、JFEエンジニアリング株、住友電設株、西日本高速道路株、日立造船株、一般財団法人電力中央研究所、大阪公立大学大学院、京都大学大学院工学研究科博士後期課程、Université Grenoble Alpes 大学院博士課程(9月より)

蘇遙会学生部

2023 年度学生部コンセプト

学部 3 年 学生部部長 中村 優志

「蘇 新」

今年度のコンセプトは蘇遙会の「蘇」の字から「蘇新」にしました。良くも悪くもコロナ禍で変わってしまった大学生活を蘇らせる、そして新しいことにも挑戦していくという意味を込めました。コロナ禍でなくなっていた活動を蘇らせるとともに新しい挑戦をしていき、蘇遙会が土木建築学科の新たなつながりをつくる一助となれるよう活動していきたいと考えております。

活動報告

学部 3 年 学生部書記 田川 峻太

～花見～

2023 年 4 月 23 日に熊本大学南キャンパスのすぐそばにある上河原公園で「花見」を行ないました。

この活動は新体制の学生部幹部で行なう初めての企画でした。学部 2 年生から院生までの多くの方に参加していただき、大変賑やかなイベントになりました。公園にビニールシートを敷いて座り、ピザやド

ーナツを囲んで、学年を超えた会話が弾んでいました。4 月の下旬であったため、あまり花は咲いていませんでしたが、学年を超えた楽しい交流ができました。特に



3 年生は上級生にインターンシップに関する質問をしたり、研究室の話をするとなど、進路に関わる内容の話をよくしていました。初めての企画の運営や準備で、分からぬことを上級生の先輩に教えていただくことが多く、上級生の先輩方の存在の偉大さ、心強さを感じました。この企画の経験を今後の企画に活かしていきたいと思います。

～新歓イベント「BBQ」～



2023 年 5 月 14 日に新入生歓迎 BBQ を白川河川敷で行ないました。コロナ感染対策が緩和され、数年ぶりに多学年が同時に集まって BBQ を楽しむことができ、学部 1 年生から院生の方まで多くの学生に参加していただきました。この企画は、新 1 年生が参加する初めてのイベントになりました。最初の受付には 1 年生の多くが個人や少人数ごとに訪れて、表情も緊張気味でしたが、時間が経過するにつれ、1 年生内のコミュニケーションが活発になり、表情も明るく、笑顔がよく見えるようになりました。蘇遙会の活動が同学年内の交友関係も広められる良い機会になっていることが感じられました。また、同学年内に限らず幅広い学年のグループもでき、楽しく話している様子が多く見られました。蘇遙会の活動が学年を超えたつながりを深めるきっかけになればいいなと思います。また、BBQ を行なうにあたって特に多くの 3 年生に手伝ってもらう場面が多くありました。運ぶもの多く、片付けにも時間がかかり、苦戦することも多々ありましたが、協力して乗り切ることができました。より一層親睦が深りました。

就活・院進学体験記

※この記事内容は 2023 年 7 月時点のものです。

学部 4 年 中村 海

私は、前田建設工業の土木職に内定を頂きました。就職活動は 3 年の夏から始め、翌年 3 月には終えることができました。今振り返ると、短い期間でしたが濃い時間を過ごすことができたと思います。

就職活動を始めたきっかけは、友人が就職活動に本気になっている姿を見て、取り残されたような気になり、とりあえずという気持ちでインターンや就職説明会への参加をし始めました。当時は大学院への進学を予定していたので、あまり本気になれずにいました。

そんな私が就職を本格的に意識し始めたのは、某大手ゼネコンの夏季インターンシップの参加でした。年配の方から若手の方までの全員が一生懸命に現場で働いている姿を初めて目で見て、自分の将来の姿が少し見えた気がしました。一番印象に残っているのは、「大学院への進学についてどう考えますか?」という私の質問に対する社員の方々からの返答です。当然大学院へ進んだ方がいいと言われると考えていましたが、社員の方々の返答は案外そうではなく、それを機に「就職」という道が自分の中で開けてきました。

インターンシップ以降は多くのゼネコンの企業を大手に限らず、準大手や中堅ゼネコンのかたのお話を聞き、真剣に自分の進路と向き合って、今の選択をしました。

私がこれから就職活動をする方に助言をするならば、「インターンシップへの参加」と「幅広く企業を精査する」ということです。きっと今ある就職や企業の知識は全体のごくわずかでしかありません。固定概念や思い込みに惑わされず、真摯に向き合ってみてください。応援しています。

学部 4 年 下川 智大

私はゼネコンの企業に内々定をいただきました。進路の決める際に感じたことを述べます。

私は入学時点でなんなくゼネコンを志望していたので 3 年生の 9 月からインターンはゼネコンに参加しました。学科や蘇遙会の就活支援セミナーや出前講義では、ゼネコン以外の業種の魅力を知る機会

になりました。進路が決められない人はまず例に出したような説明会でいくつかの業種を一度聞いてみることで比較でき、判断しやすいと思います。結果として私は改めてゼネコンに進みたいと感じことになりましたが、志望進路が変わる人もいたので初めに興味を持った進路に固執せず、ほかの進路にも目を向けることは必要だと感じました。また、ゼネコンのどの企業を志望するかの判断は、その企業の社員の方や説明会といった直接かかわる機会が必ず必要だと感じました。同業種の企業を差別化するのはネットの情報だけでは難しく、現場の雰囲気やリクルーター、OB の方と接してみると直感的にも判断できましたし、違いを感じやすかったです。

一番は進路選びには出会いや比較の機会が必要なことだと思います。東京はもちろん、福岡の友人と比べても就活の動き出しが遅かったので、機会を逃さないように早めのスタートを頑張ってみてください。

学部 4 年 松田 空

私が大学院に進学しようと思い始めたのがいつかははっきり覚えていませんが、高校生の頃からなんとなく大学院に進学したいな、とは考えていたような気がします。進学の意思が固まったのは大学 3 年生になってしまらしくして、周りが進路をどうするかを考え始めた頃だったんじゃないでしょうか。はっきりとは覚えていません。こんな感じで意思決定のタイミングはふわっとしていますが、大学院に進学したいと感じたきっかけは明確に覚えています。

3 年生の頃参加したインターンシップで、インターンシップ先の社員の方と修士 1 年の先輩と三人でおしゃべりをしていたときの出来事です。社員の方はもちろん業界に関しての知識が豊富でさすがだな、と思ったんですけど、修士 1 年の先輩も自分の研究などを通じて培ってきた知識があり、社員の方に対する質問も私より断然深い内容だったことに衝撃を覚えました。私よりも 2 年多く勉強しているので当然っちゃ当然なのですが、同じタイミングで就活するのにこうも知識の量に差があるのか、とめちゃくちゃ不安になりました。同時に専門分野に関して超詳しく話せる先輩が超かっこいいとも感じました。これが大きなきっかけとなり、大学院に進学して一つ自分の武器となるような専門知識が欲しいと感じるようになりました。

その後一切就活はしなくなつたのですが、そのことだけは少し後悔し

ています。就活を通して業界を取り巻く状況などを知り、自分がどのような研究をしたいかを真剣に考える機会ができると思うので、大学院に進学したいと考えている人も一度就活に取り組んでもいいのではないでしょうか。

修士1年 中山 恭吾

私は本学大学院に進学し、現在修士課程1年として就職活動を行なっています。私が大学院進学を選んだ大きな理由は、もっと広く、深く、建設業界を知る時間を作りたいと思ったからです。コロナ禍もあり、リアルな建設業界を知る機会が少ない状態のまま、就職先を決めてしまうことに抵抗を感じ、進学を考えるようになりました。大学院では普段の授業や研究活動に加えて、外部発表や長期インターン、学生プロジェクトなどに参加することで、将来自分が携わる建設業界への視野が大きく広がり、志望企業への理由付けが出来る大切な時間になっていると思います。自分自身、学部生時代には選択肢になかった業種に進みたいと考えるようになったので進学して良かったなと思います。自分の専門性を深めるだけでなく、改めて自分の将来について考え、今しかできない経験をするための時間、一人前の土木技術者になるための準備期間として進学することもおすすめです。

蘇遙会学生部研修旅行について

今年度は9月25,26日に1泊2日で研修旅行を実施します。2021年度以来の研修旅行となります。活動の中でも規模の大きな活動ですので身が引き締まる思いで計画を進めています。

2021年度の研修旅行の様子を蘇遙会ホームページに載せておりますので、下記のURLから学生部活動のページをご覧ください。

<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/?cat=9>

【まとめ】

多くの学生のコメントにあるように昨年に比べコロナの感染対策緩和されたことで、対面での授業、サークル活動、学年を超えた交流が蘇ってきているように感じました。基本的な感染対策は続けながらも、より充実した生活を送ることができているようです。(蘇遙会学生部)

在学生の声

- CAD演習終わって幸せです。(ケースケ)
- 3年生になって対面授業が増えたことで友達に大学で会える楽しみがきました。夏のインターンも頑張りたいです。(太)
- インターン講演会で実際に企業や行政機関で働いている方の生の声を聞くことができてうれしい! (マルチーズ)
- 土木実験で友達増えた!!(ナチュラル伯爵)
- 何もなかったけどインターン講演会で指針がみえました(紫陽花)
- 蘇遙会の活動がコロナをあまり考慮することなく思いっきり活動できるようになってうれしい。今後も学年を超えたつながりを深められるような活動をどんどん企画してほしい。もっとたくさん活動に参加したい。(目頭 3:45)
- 誘われた飲みに行きまくったら、お金がなくなりました。でも、友達はめちゃくちゃ増えました。(もとふゆき)
- コロナで1年生の頃の記憶ないです。(ともき)
- コロナ禍明けてから学校行くようになって楽しい!みんなと一緒に進級できますように!(ハシビロコウ)
- 今年のシグマ祭ではついに食べ物が解禁とききました!昨年のレモネードを超える屋台を出店できるようにがんばりたいです!! 学生部幹部内外含めて楽しみながら最高の思い出を作りたいです!(ビックリマン)
- 蘇遙会を通じて先輩の話をたくさん聞くことができて助かった。(motoki)
- 入学してすぐは、友達ができるか不安だったが、イベントを通して、友達だけでなく先輩とのつながりもできた。(ちーろ)
- 蘇遙会のBBQがとても楽しかった。初めての1年生を含めた行事だったのでとても新鮮だった。2年生以上と1年生でもっと仲良くなっていきたい。(ジャッカル)
- 対面の講義が増えて、グループで行う科目も多く、友達が増えた。友達が増えたことで大学に行くことがより楽しみになった。(レイボー)
- 3年生になって初めて英語の授業が対面になった。今までではテキストを各自で進めたり、zoomなど、画面越しの講義ばかりだったので、実際に英語を話すことがとても楽しく感じる。英語力を高めるだけでなく、英語を話すことが好きになれるようになりたい。(強腕)